

授業科目(ナンバリング)	紀行文学論 (CA211)			担当教員	※青崎 孔		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本講座は、日本語教員養成課程の履修者にとっては<b>必修科目</b>である。</p> <p>旅は非日常的な時間と空間とを体験し、未知の自然や文化を体感することができる。古来多くの土地を素材とした旅行文学があるが、この長崎ほど歴史と文化の変遷の洗礼を浴びた土地はない。日本でありながら、アジアが、ヨーロッパが混在する長崎は、いわば居ながらにして異国を、異文化を、そして日本の文化と歴史を体感できる土地なのである。この特異な郷土の文学を集めた「長崎の文学」を読解・鑑賞することで、新たな旅の魅力を体感し、また同時に新たな自己発見の糸口を見出すことが本授業のねらいである。</p>							①④ ⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・観光と文学との接点について素材を通して主体的に学習に関わることができる。			・授業態度	20%		
情報収集、分析力	・作品を通して、当事者の行動と内面の関係から「旅と文学」について客観的な判断や問題点を指摘し、分析できる			・演習と発表	10%		
コミュニケーション力	・グループワークによる課題発表を通して、聞き手の反応を捉えながら、必要な情報を補足説明し、意見を提示することができる			・授業における課題発表等	10%		
協働・課題解決力	・授業発表に係るグループワークを行い、自分の意見と合わせて意見提示ができる			・ミニレポート	10%		
多様性理解力	・作品ごとのグループでのディスカッションを通して、他者の意見を取り入れ、併せて自己の意見を具体的に表現することができる。			・期末レポート	50%		
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>1 毎時間作品を鑑賞し、グループワークによる発表を行う。授業の中で討議内容についての評価・指導を行う。</p> <p>2 毎時間ごとにまとめのミニレポートの提出を課す。次の授業で評価についてフィードバックする。</p> <p>3 学期末に単位認定レポートを課し、ポートフォリオで評価結果をフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>「国際観光学科」にこの「紀行文学論」が課せられている背景を理解するとともに、作品を通して「人はなぜ旅に憧れるのか」「旅に心惹かれるのはなぜか」等ディスカッションを通して考え、グループワークによる授業発表により時代背景や社会状況、あるいは政治的な問題をも含めて、人生に大きな影響を与えたであろう旅を、より豊かなものとして捉えることができる。そのことによって、やがて社会において必要とされる視点の多角化、内的世界の広がりにも資することができるよう取り組んでいただきたい。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：「長崎の文学」、各文庫本  参考書：適宜紹介する。  指定図書：「長崎の文学」、各文庫本</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>幕末まで異文化との唯一の接点であった長崎。その長崎が生み出した文学を学ぶことで、アジアを始め、遠く西欧の文化を受け入れてきた長崎独特の文化を体感し、やがては「旅と人間」「旅と人生」などへのアプローチができることだろう。本講座の受講者には時期を見ながら「長崎の文学」について見聞を広めていただきたいと考えている。時間を割いて「百聞は一見に如かず」を経験されるよう期待する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	・「文学」「紀行文」「長崎の文学」および講義の全体像を把握する。	・旅と人間との関わりを考える。
2	日本における紀行文学①	・紀行文の成り立ちと初期の作品を読む。 『万葉集』『土佐日記』など	・『青春漂流』を読む。 ・プリント教材
3	『青春漂流』を読む	・『万葉集』を受け、空海の人生に対する考え方を読む。 長崎の文学『青春漂流』を中心として	・『土佐日記』を読む。 ・プリント教材
4	『青春漂流』を読む	・『万葉集』を受け、空海の人生に対する考え方を読む。 長崎の文学『青春漂流』を中心として	・『土佐日記』を読む。 ・プリント教材
5	日本における紀行文学②	・中古の紀行文学を読む。 『土佐日記』を中心として	・『土佐日記』を読む。 ・プリント教材
6	日本における紀行文学②	・中古の紀行文学を読む。 『土佐日記』を中心として	・『更級日記』を読む。 ・プリント教材
7	日本における紀行文学③	・中古の紀行文学を読む。 『更級日記』を中心として	・『更級日記』を読む。 ・プリント教材
8	日本における紀行文学③	・中古の紀行文学を読む。 『更級日記』を中心として	・『奥の細道』を読む。 ・プリント教材
9	日本における紀行文学④	・近世の紀行文学を読む。 『奥の細道』を中心として	・『奥の細道』を読む。 ・プリント教材
10	日本における紀行文学④	・近世の紀行文学を読む。 『奥の細道』を中心として	・『長崎天草を訪ねて』を読む。テキスト P174
11	随筆① 『長崎天草を訪ねて』を読む	・紀行文学についての概念を理解する	・「旅」の経験を考える。 ・プリント教材
12	随筆① 『長崎天草を訪ねて』を読む	・紀行文学についての概念を理解する	・「旅」の経験を考える。 ・プリント教材
13	白石一郎 『蒙古の槍』を読む①	・異国文化交流の負の部分を見る。 ・肉親の情や集団と個、運命に翻弄される人間を個人レベルで見る。	・『蒙古の槍』を読む。 ・テキスト P40～45
14	白石一郎 『蒙古の槍』を読む②	・異国文化交流の負の部分を見る。 ・肉親の情や集団と個、運命に翻弄される人間を個人レベルで見る。	・『蒙古の槍』を読む。 ・プリント教材
15	紀行文学の総括	・白石一郎の作品を契機に、長崎の文学が海を背景に持っていることを踏まえ、その特異性に気づく。	・これ小間での学習を振り返り、総括とする
16	定期試験		